

第10回議会報告会での発表内容等（区別）

テーマ：「新潟市のまちづくりについて」

北 区

課題：公共交通について

<地域の課題>

- ・年配者が多く、新崎駅の階段の昇り降りが厳しい。
- ・地域を結ぶ横断的なルートがない。
- ・区役所新庁舎が豊栄地区にできるが、そこに行くための利便性がよくない。
- ・路線バスの本数が少ない。
- ・住民バスの「おらってのバス」の本数が少ない。
- ・バスの路線がわかりにくい。
- ・バス停が遠い。
- ・バス停に屋根がないため雨に濡れる。
- ・中心市街地の利便性のみ追求しているように感じる。
- ・中心部にばかりお金を使っているようにみえる。

<解決策>

- ・新崎駅のエレベーターの早期設置。
- ・新崎駅周辺の開発。
- ・住民バスの「おらってのバス」の充実。
- ・デマンドバスの充実。
- ・新潟医療福祉大学生のバス利用推進。
- ・直通便を増やす。
- ・高齢者のバス利用のため免許返納時に高齢者に無料パスなどを配布する。

課題：少子化対策と人口流出

<地域の課題>

(少子化対策)

- ・適齢期でも男女とも結婚しない、したがない。
- ・出会いの場がない。
- ・子育て（子どもの教育）にお金がかかる。

(人口流出)

- ・首都圏に進学し、そのまま就職してしまう。
- ・近くに働く場所がない。
- ・非正規雇用が多い。
- ・後継者不足。
- ・同居家族が少ない。
- ・魅力ある場所、遊べる場所、レジャー施設がない。
- ・豊栄駅へのアクセスが悪い。

<解決策>

- ・婚活支援。
- ・U I ターン支援。
- ・東港周辺の工業用地造成。
- ・北区の学園都市を進化させ、若者の流出防止を図る。
- ・同居世帯の二世帯住宅建築費助成。
- ・地域のインフラ整備。
- ・若者が集う店、施設の拡充。
- ・住みやすくするため豊栄駅へのアクセス改善。
- ・企業誘致のネックである冬場の雪対策。

東 区

課題：医療と介護

<現状>

- ・近くに医者がいなくて困る。
- ・介護施設への入所が困難。
- ・介護保険制度が変わってよくわからない。
- ・助け合いが出来る間はよいが、出来なくなったときに困る。
- ・一人暮らしの人が多くなり、話し相手を待っている。
- ・一人住まいの方の健康状況の把握が出来ていない。
- ・高齢者、要介護者などの状況を把握するのに個人情報、プライバシーの壁がある。
- ・「地域の茶の間」の参加者が増えない。

<意見・提案>

- ・医療機関の連携をよくしてほしい。
- ・介護施設の空き状況をわかりやすくする。
- ・デイサービスに行けない人の行き場が必要。
- ・あいさつ運動。
- ・一斉清掃などを通して、地域の交流や近所付き合いを活発化。
- ・コミュニケーションの場がもっと必要。
- ・「地域の茶の間」がほしい。
- ・空き家、空き部屋をみんなが集まれる場にしたい。市として場所をつくってほしい。
- ・病気になったときの仕事の保障。

課題：公共交通

<現状>

- ・目的地に行くのにバス停がわかりにくい。
- ・高齢者の乗り換えが不便。
- ・古町に出にくい。
- ・バスを利用する回数が、年2～3回の人がほとんど。「1回も乗らない」という人もいて多くが自転車やマイカーを利用している。

<意見・提案>

- ・バスの本数を多くしてほしい。区バスを増やしてほしい。
- ・新潟駅工事終了後の路線再編の検討を。
- ・都市部と農村部で路線の見直しが必要。
- ・古町行を増便し、活性化も図るべき。
- ・小型化して増便し、流れをよくしたほうが良い。
- ・公共交通の運営、経営のあり方を検討すべき。
- ・区バスを市バスにしていく。市営も検討を。
- ・財政の問題はあるが、官を強めて公共交通を拡大してほしい。
- ・バス代を下げ、利用拡大すべき。
- ・ステップが高すぎるので、ノンステップバスにしてほしい。
- ・バスとマイカーの共存、市民ファーストで改善してほしい。

課題：災害に強いコミュニティづくり

<現状>

- ・避難場所が少ない。
- ・高齢者が多く、避難場所へ行くのが大変。
- ・道が狭く、袋小路が多い。
- ・防災に関する世代のギャップが大きく、話がかみ合わない。
- ・アパートが多く自主防災組織の参加者が少ない。
- ・新潟市の防災指針があいまい。特に防災士の活用、位置付けが不明。
- ・食料の備蓄が1人1食では足りないのではないか。
- ・災害時要援護者名簿が送られてくるが、元気な人も名簿に入っているのは問題ではないか。

<意見・提案>

- ・市営、民間住宅の空き部屋を一時避難所として活用できないか。
- ・町内会地域の商店、コンビニ、スーパーとの協力が必要。
- ・自治会で独自に井戸を掘って、災害時の必要な水を確保する。
- ・避難所での受け入れのあり方を改善する必要がある。

中央区

有明台小学校区コミュニティ協議会の皆さんから地域で行っている活動について事例発表していただき、意見交換を行った。

<事例発表>

○放課後の児童クラブ支援地域連携モデル事業について

- ・有明台小学校は昭和30年1月に創立され、最盛期は児童数1,200名を超える新潟市最初のマンモス校。当時共働き家庭による鍵っ子対策について要望があり児童クラブをスタートした。
- ・当初は全校児童数800名のうち25名の利用だったが、現在は全校児童数221名中52名の学童利用者がいる。核家族化と夫婦共働き、地域で面倒見のよいお年寄りがいなくなったことなどが原因と考える。
- ・転勤し、30年後に有明台に戻ったときに、児童が授業終了後歩いて1キロ離れた児童クラブまで通う現状に心を痛め、交通事故や昨今の誘拐事件などもあり、地域の子どもを地域で守る体制づくりが急務と考え、関係者の援助をいただきながら、帰宅支援ボランティアスタッフが児童クラブの下校時に児童を自宅まで引率する支援体制を始めた。
- ・現在ボランティアスタッフは13名。1日4人体制で3ルートで帰宅支援を実施。秋は陽も短く、ご家庭から大変喜ばれている。7カ月経過し、内部体制が当初の予定どおりになっていないため、明るく危険が少なくなった6月から夏休み後まで休止して体制を立て直し、新たな形で子どもたちの「安心・安全」のために再開したい。

○防災活動について（防災に関する黄色いタオルの取り組みについて）

- ・平成16年6月15日に有明台校区自主防災会を設立。向こう三軒両隣の本質に基づく自主防災的な防災活動を行うことで、災害による被害の防止、軽減を図ることを目的に活動している。
- ・新潟市では平成19年度より災害時に援護が必要な方を対象に希望を募り、災害時要援護者として登録を行い、自主防災会・民生児童委員会・町内会などに安否確認や避難付き添いなどを求めてきたが、他にも未登録者がいて災害時にこの方々をどうするか、災害時に自主防災会の役割分担で人出が足りず、災害時要援護者支援ができなくなる懸念があった。そこで、全世帯に安全確認用タ

オルを配布し、災害時に戸外が一番見やすい場所に掲示して身の安全を知らせる取り組みを行っている。

- ・コミュニティ協議会は様々な活動を通じて、地域住民がお互いに交流を重ね、安心して生活できるまちづくりに努めていく決意である。

<意見交換> (○：参加者発言、●：議員発言)

- ひまわりクラブ帰宅支援について一旦休止に入るが、その後は通年で実施するのか。
- 休止は当初から予定していたことであり、休止後は通年実施を予定しており、昔遊びなど支援内容も追加していきたいと考えている。
- 後期高齢者で免許証を返納した。シニア半わりの更新手続きを簡単にしてほしい。
- 検討課題としてご意見をうけたまわった。
- マンションによっては学校区は有明台なのに、違う校区に通っている。(子どもを交えた)地域の活動がしにくくなるため、学区外通学を安易に認めないでほしい。
- どういう理由で学区外就学を認めているのか基準を示してほしい。
- 原則認めていない。個別の理由で例外があると思われる。関係部局に問い合わせ、後日報告したい。
- 防災活動については、学校の先生ももう少し地域との連携の意識を高めてほしい。
- 10年前他県から新潟へ移住した。福祉施設で働いている。地域の防災訓練にも参加させていただいている。高齢者や要介護の方、施設の職員も役割分担で積極的に地域に関わっていきたい。

江南区

課題：医療と介護について

<問題>

- ・介護保険料が高い。
- ・社会福祉協議会の担当者、介護職員が不足している。
- ・特別養護老人ホームの入所に時間がかかりすぎる。
- ・気軽に老人ホームを利用できなくなった。
- ・退院時の受け入れ先がなかなか見つからない。(特別養護老人ホームの入所が難しくなっている。)
- ・地域の茶の間が少ない又は遠い。
- ・ボランティアで参加しているが、それでよいのかという仕事もある。

<意見>

- ・介護保険料の見直し。
- ・介護職員の手当の充実。
- ・介護認定の手続きの簡素化。
- ・自治会、地域での要支援者への支援体制づくりを進める。
- ・一人暮らしの老人に対する支援体制づくり、話し相手づくり。
- ・地域の茶の間の参加者を増やす努力、取り組みが必要。
- ・健康寿命延伸の取り組みを進める。

課題：地域の交通安全対策について

<問題>

- ・自転車通学のマナーが悪い。路上駐輪が多い。
- ・速度制限の順守ができていない。
- ・除草ができていないため、視認が悪い。
- ・視認の悪い交差点がある。(橋、カーブ)
- ・茗荷谷新橋の欄干が邪魔をして視認が悪い。
- ・金照寺の通りがカーブで見にくい。
- ・大江山公園の来園者の事故防止措置が足りない。
- ・バス停に風除室がない。

<意見>

- ・年代別（小中学校・高齢者）、地域別（小さな集落単位）での安全講習会の実施。
- ・警察に街での安全指導を徹底してほしい。（月1回くらい）
- ・路上駐輪防止策の徹底、自転車のルールの徹底。
- ・カーブミラーを大きくできないか。
- ・通学路の歩車道の分離を進める。
- ・路側帯のカラー塗装を進める。
- ・除草、樹木剪定の徹底。
- ・防犯灯、街路灯の設置を進める。
- ・道路標識の追加設置を進める。

課題：公共交通

<問題>

- ・駅へのアクセスが悪い。
- ・電車利用者のための駐車場が駅周辺に造ってほしい。
- ・古町に行く気がおきなくなった。
- ・バス料金がとにかく高い。
- ・バス停を増やしてほしい。住宅街にも入れてほしい。
- ・大江山地区を回り、亀田駅東口に停車する路線がほしい。
- ・小型バスを増やしてほしい。
- ・区バスは冬季間が特に必要。

<意見>

- ・市民ニーズにあった路線への見直し。
- ・小型バスの導入で住宅街での乗降を可能にする。
- ・老人憩いの家とのタイアップで交通費を無料にする。
- ・温泉と食事を一緒にできるような施設をつなぐ住民バスにしたらどうか。
- ・町中に公共交通を使えるように、バス料金を見直す。

秋葉区

課題：地域包括ケアシステムについて

<課題>

- ・交通手段の確保。
- ・地域の茶の間に元気な人は行けるが、足の悪い人、車のない人など行きたくても行けない人がいる。
- ・老人介護。老々介護の問題。
- ・家族は希望しても本人がサービスを受けることを拒否する。
- ・医師不足。
- ・介護施設での職員不足。
- ・夜間の医療体制の確保、充実。（地域に夜間受診できるところがない。）
- ・自主防災の体制。（自主防災に入っていない自治会がある。）
- ・緊急キットが活用されていない。
- ・個人情報等の問題からの情報共有不足。

<意見>

- ・地域の茶の間に出ていく足を確保するためのコミュニティバス等の確保。
- ・施設での働き口の募集をチラシなどで地域の方に配布するなどして情報共有。
- ・地域の茶の間をコミュニティで運営しているので、その取り組みを全体に広げていくことが今後の理想。
- ・日頃のつながりを大事にして、声を出せない人をどう支えるかが重要。
- ・施設と地域の情報交換。
- ・地域の茶の間、ホットカフェの広がり。
- ・自治会の強化。
- ・医師、利用者、介護、薬剤師等の連携。
- ・以前に配布した緊急キットの活用の意識付け。

南区

課題：医療と介護について

<問題>

- ・農村部は老いても仕事があり、ボランティアの確保が難しい。
- ・介護制度の見直しで困っている家庭が多い。家族の負担が大きい。
- ・施設のたらい回しはやめてほしい。特別養護老人ホームを多くしてほしいが、効率化も必要。(高齢者施設の統合。)
- ・救急車の時間の件で病人の家から出発するのが遅い。
- ・医者に行くのにバスの便が悪い。大きな病院だと紹介状がないとダメ。それが不便。
- ・大きな病院だと予約しても待ち時間が長い。

<意見・要望>

- ・地域で親子が同居できるような社会をつくる。働き場所が必要。(地場産業の育成、能力開発など。)
- ・福祉バスの医療、買い物等のバスの運行を考えられないか。
- ・見守り制度をつくってほしい。
- ・かかりつけの医者をつくる。
- ・食と健康に取り組む。
- ・老人ホームに入りやすいようにしてほしい。
- ・介護料金を安くしてもらいたい。

課題：少子化対策について

<問題>

- ・子育ての問題。(子守りをしてくれる人がいない。)
- ・結婚していない人が多い。
- ・居住環境の問題。
- ・働き方の問題。
- ・働き場所、安定した収入がない。
- ・保育のあり方の問題。(保育料が高い。)

<意見・要望>

- ・祭り、凧合戦などを活用し、出会いの場をつくる。お節介な地域の人を。
- ・全市的対策でなく、地域の特色を。
- ・カンフル的な対策が必要。
- ・病児保育をやる。
- ・中高生への支援。
- ・保育園に全員入れるようにする。
- ・保育料を安く。味方の子は味方の保育園で。
- ・子育ての環境を良くする。(育てやすい環境の整備。)

課題：公共交通について

<問題>

- ・バスの本数が改定の度に減らされて、ますます不便になった。
- ・BRTについて、なぜ新潟駅まで行かず、青山止まりなのか。
- ・南区(味方地区)からの新潟市内への乗り入れが不便。(青山乗り換え)
- ・路線バスは、以前は新潟駅まで運行されていたが、ダイヤ変更により青山で乗り換えることで通勤・通学者は不便になったためバス利用が少なくなったのではないか。

<意見・要望>

- ・曲がりくねっている道路を改良して流れを良くする。
- ・環状線を早く完成させる。新潟駅へ30分で行く手段。新しい駅を造る。(上所島、二本木)
- ・公共交通をあまり使わないため、ガソリン代を補助してほしい。
- ・通学の時間帯の登下校の確保。(特に年度初めと高校入学時)
- ・白根高校に通学用のバスを用意する。
- ・通学時間以外のバス、新潟駅までのバスの本数を増やす。
- ・新潟交通のバスは青山乗り換えでなく、古町や新潟駅まで直通に。
- ・乗りやすい低床バスに。高齢者にも配慮されたバスが良い。
- ・味方縦貫道のバス駐車場の表示時間表をわかりやすく。
- ・駅の近くに大型駐車場を。
- ・イベント時には利便性の良いバス運行を。
- ・越後線へバス接続、地域の行事にはシャトルバスの運行を。

- ・市営バスに。
- ・バス（コース、定期）よりタクシーを呼び、依頼し、割安な賃料で乗れたらと思う。

西 区

課題：公共交通、高齢化対策、環境整備

<問題>

- ・バスの便数が少ない。
- ・休日の路線バスが少なく、地域の行事に地域外の人が来られる条件が限られる。
- ・越後赤塚駅の階段。
- ・高齢者の運転問題。買い物や通院などのライフラインが困る。
- ・佐潟の水質の悪化。(へドロ、水門の問題)
- ・佐潟公園の周遊道が途切れている、多くが農道と共用。
- ・佐潟周辺の観光拠点が少ない。
- ・独居高齢者の入院、施設入所の問題。(身元引受人、保証人の問題)

<意見・要望>

- ・路線バスを西蒲区とリンク（内野駅⇄きらら西公園⇄佐潟⇄上堰潟）すれば利用が増える。
- ・越後赤塚駅にエレベーターを設置。
- ・佐潟の水質保全のために水門の改修工事を行う。
(角田山系からの伏流水である佐潟の水質の低下を招かないためにも水門の改修工事を。)
- ・佐潟+周りの自然（砂丘・田）を生かした観光を市も取り組んでほしい。
- ・佐潟水鳥・湿地センターを地域の情報拠点にする。(農産物などの販売場所+地域行事の案内+コミュニティ施設など。)
- ・佐潟周辺遊歩道の整備。
- ・敬老会を復活させる。
- ・老人クラブの補助金を増やす。

課題：農業問題

<問題>

- ・減反がなくなることによって価格が下落すると困る。目標目安の数値は出るのか。
- ・佐潟周辺の砂丘地帯の畑の鳥獣（狸、カラス、ハクビシン）被害。
- ・農繁期の雇用人の確保。

<意見・要望>

- ・がんばる農家支援について予算の増額。
- ・ハローワークと連携してやる気のある若手を雇用するルートの確保。
- ・鳥獣駆除対策をしてほしい。
- ・農業特区が小規模農家にも恩恵があるようにしてほしい。手続きの簡素化。
- ・米の補助金制度の復活。
- ・農商工連携し、特産物を利用した商品開発をする。

課題：今後の医療と介護（健康寿命延伸）

<問題>

- ・老人クラブの会員は多数いるが、限られた人しか出てこない。
- ・老人クラブの中でも知らない人がたくさんいる。
- ・老人クラブの助成制度、補助金制度が使いにくいのでは。
- ・有償ボランティアの支え手不足。

<意見・要望>

- ・老人クラブの会員同士で声を掛け合ったり、訪問したりすることで健康寿命も延び、地域の活性化になる。そのため老人クラブを行政も手厚く支えてほしい。
- ・老人クラブの助成制度、補助金制度を手厚くして支援してほしい。
- ・有償ボランティアをやりたくなるような制度に見直す。（金額の増額など）

課題：雇用，人口減少，農業問題

<問題>

- ・働く場がないため、大学卒業者のUターンの減少。
- ・農業の担い手がない。
- ・農業特区は誰のための特区なのかわからない。
- ・農業特区というと響きのよい言葉だが、特区で特をしているのは大企業。
- ・農業特区そのものが農業問題を直接解決するものなのか。
- ・農業でブランド化を図りたいが、支援の必要性や個別化しづらい点がある。
- ・ブランド化したい商品があっても、人手が足りず、ブランド化する前にその物もなくなってしまう。

<意見・要望>

- ・雇用における環境整備、雇用の受け皿が必要。
- ・人が戻ってくる施策が必要。
- ・東京に行って得た色々なノウハウや新潟にないものなど、経験したことを還元できる場をつくる。
- ・担い手がないので請け負ってほしい。
- ・田んぼの集約化。

西蒲区

参加者（コミュニティ協議会）と議員との意見交換の内容

（○：参加者発言、●：議員発言）

- 敬老事業について見直しがあり、金額、使途ともに制限が大きくなった。岩室地区において敬老事業は伝統的な取り組みで、これが健康寿命の延伸につながっている。地域の事情も理解し、従来への制度の継続をお願いしたい。
- 地域によって実施状況が異なるので、調査が必要であるが、貴重な意見として持ち帰る。

- 施策が傷に絆創膏を貼るような施策ばかりだ。仙台は活気がある。新潟を活性化させる、人口減少を食い止める考えはないか。明治時代には新潟が人口日本一だった。当時は食べるものが重要な時代で、新潟には豊富な食べ物があった。今は東京に一極集中で、仕事が重要で、東京には仕事がたくさんある。新潟にできる施策を先手先手で講じてほしい。
- 大学のスキルを上げる取り組みや新潟の企業がスキルを身に付けた若者を受け入れる力をつけることなどが重要。議会の中で提言し、議論していきたい。

- 合併してもいいことがなかったという意見が多い。何でも新潟市統一の制度にしようというふうに見える。また、事業が中央にいきがち。農村部の利便性を上げてほしい。
- 限られた財源で事業を行うには、NPOやJAなどの多様な主体が連携する必要があると考える。

- 市のコミ協支援について、西蒲区は身近に議員や首長がいる環境になく、コミ協がミニ役場のような役割を担おうという考えもある。役員だけでは難しいので、各コミ協の事務局を充実させてほしい。事務員がいて、コミ協の活動が活発になれば、得をするのは行政だ。活発なコミ協には多くの支援を行うべきだ。
- 西蒲区は市内でも一番コミ協活動が活発な区のひとつだ。区独自の取り組みが発展するよう働きかけていきたい。

○西蒲高等特別支援学校の卒業生の行き場がない。作業所も満員状態。障がい者雇用に一層力を入れてほしい。また、障がい者への理解が足りていない。オール新潟で取り組みを。

●新潟市障がいのある人もない人も共にいきるまちづくり条例を施行した。ご意見のとおり、障がいのある人への理解促進が大切。あらゆる場面で働きかけをしていきたい。

○米の生産調整について、行政と農家との間で認識がずれている。市として少しでも農家にメリットがある施策を講じてほしい。

●確かに国は生産調整が完了したという認識があるようだ。現場の声を国に届けることが重要。また、新潟ならではの加工米にも力を入れていく必要がある。

○社会実験でやっている公共交通の乗車率が低く、補助が打ち切られる可能性があるが、補助を打ち切られると全く交通手段がなくなってしまう人もいる。農村部には十分配慮してほしい。

●乗車率が不利な地域もあるので、乗車率が低くなっても社会実験が継続できるようなことを伝える。

○公共工事のくじ引きは止めることができないのか。

●くじ引きでないに越したことはないが、今のところより良い方法がないのが現状。今後研究してみたい。